

# チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信



第43号

2020.3 vol.43



即位のパレードの日



東京タワー



ミニタワー



クリスマスイブの東京タワー



講演会の様子



地区CC会議の様子

## CONTENTS ■ ごあいさつ

港区 副 区 長  
明治学院大学名誉教授

田中 秀司  
河合 克義

- 第4回 港区地域福祉フォーラム開催
- 活動報告会中止
- 昔遊び交流会・ボウリング大会・バリアフリー調査
- 特集 防災活動中のCCクラブ会員
- 地区CCクラブ年間活動報告
- 講演会「想いをつなぐ～東京2020大会、そして未来へ～」
- 企画部研修会 「サロン活動について」
- 運営委員会報告・活動計画

## 「人を大事にする」活動で 地域に光を

■港区副区長  
田中 秀司

「令和」最初の3月。梅花から桜花へと移り、華やぐ風は、さわやかな香りを運んできます。

東京2020大会が開会される本年、13年目を迎えるチャレンジコミュニティ・クラブの皆さんの日頃の活動に感謝と敬意を表します。

皆さんは、人生経験を積み、また、志高く、チャレンジコミュニティ大学で学び、今では、町会長、民生・児童委員、各地区のサロン活動など区政や地域のあらゆる分野で活躍されています。

昨年12月に及川廣子代表はじめ役員の方々が区役所を訪れ、CCクラブの年間活動の報告をいきいきと話される姿に元気をいただきました。

平成28年12月、チャレンジコミュニティ大学10周年記念シンポジウムが行われました。講演された神野直彦東大名誉教授は、「社会的孤立」の克服への試みを、CC大学が行っている旨話されていました。これも創立からご尽力いただいている河合克義先生のお陰です。感謝申し上げます。

レセプションでは、東日本大震災の影響で修了式が中止となった4期生代表への修了証授与式が行われ、厳粛さの中にも温かさを感じました。

こうした日々の活動を続ける原動力は、「人を大事にする」会員の心と行動だと感じています。

今、区の人口は約26万人です。令和9年には30万人を超える見込みです。

人口が増え、まち全体が活気を帯びている港区です。でも忘れてならないのは、一人ひとりの区民に「光」をあて、その人らしい生活が送れる環境を作ることだと思います。

CCクラブと区との重層的な取組により、地域において、社会から孤立しそうな人に双方から光をあて、社会的孤立の克服ができれば幸甚です。

「人を大事にする」活動が未来に続くよう一緒に力を尽くしましょう。



## <新たなつながり>の力

■チャレンジコミュニティ大学統括コーディネーター・  
明治学院大学名誉教授 河合 克義

2008年3月、チャレンジコミュニティ大学（CC大学）の修了生をもって、チャレンジコミュニティ・クラブ（CCクラブ）が生まれました。それから12年が経過しました。

CC大学が生まれる背景には、港区の当時の地域関係の希薄化、孤立問題がありました。とりわけ、高齢者の孤立状態ということでは、全国でも上位に位置する、問題を抱える地域でした。

CC大学の設立に関わった者として大切に考えたことは、大都市での地域ネットワークの構築、それも一般的な住民のつながりづくりだけではなく、地域で声をあげない孤立している人々も巻き込んだコミュニティの創造でした。

CC大学は、60歳以上の区民を対象にした自治体による学習プログラムです。この年齢層を対象にした学習の場は、生涯学習プログラムとして多様な「大学」が全国にあります。しかし、そこでは、学ぶこと・「自己実現」のレベルで留まっているものが多いのです。それに対して、CC大学は、理解することだけではなく、活動を展開しています。

CCクラブの活動は、いま、「高齢者支援」「町会・自治会の活動」「マンション管理組合、自治会活動」「区民参画型の区の事業」「子育て支援」「障がい者支援」「民生委員・児童委員」「地域防災」「緑化・環境美化」等、多様な展開をしています。

私は、こうした活動はCCクラブのメンバーのつながりがあってこそ成り立っていると思うのです。CC大学に入学してくる人の9割は、「知っている人がいない」方です。今、CCクラブは700人もの組織となっています。その大半は、CC大学入学後に出来た友だちです。CCクラブでの<新たなつながり>、これが大きな力となっているのです。





## 第4回 港区地域福祉フォーラム開催

令和元年10月26日（土）・27日（日）の2日間、高輪区民センターにて「第4回港区地域福祉フォーラム」が開催されました。延べ約2,600人が来場されました。主催は社会福祉法人 港区社会福祉協議会で、チャレンジコミュニティ・クラブは前年に引き続き運営協力しました。



パンフレット

高輪区民ホールにおいて、今年は、民生委員・児童委員の啓発ポスターなどで協力いただいている、生島ヒロシ氏により「言葉のチカラ～地域のつながりづくり～」の講演がありました。

CCクラブからは、地域社会福祉貢献賞を、介護予防あおぞら、KISSポート・エンジェルス・ハーモニー、また、地域福祉功労賞を、チャレンジコミュニティ・クラブ七期二グループ、「みなトーク」会、山口明子氏、福島正純氏、岩佐徳太郎氏が、それぞれ港区社会福祉協議会から受賞しました。

CCクラブが受付をする区民センター1階では、地域活動団体の活動パネルをはじめ、芝CCクラブによる「折り紙つり」など人気のあるコーナーが数多くありました。2階では、スタンプラリーの景品交換所や高輪地区CCクラブのカフェコーナーが賑わっていました。

受付では、会場案内図に加えてスタンプラリーの用紙の要望や場所、さらに人気の企画である「ねんドル岡田ひとみの親子ねんど教室」の会場への行き方などの質問が多くありました。



景品交換所です

CCクラブでは、前日の準備から関わり、このイベントが成功するよう運営協力を行っています。協力員が少ないと、当日協力しても交代して他のブースの様子を見学することができません。もっと多くの協力者が望まれます。

CCクラブでは、前日の準備から関わり、このイベントが成功するよう運営協力を行っています。協力員が少ないと、当日協力しても交代して他のブースの様子を見学することができません。もっと多くの協力者が望まれます。

受付では、会場案内図に加えてスタンプラリーの用紙の要望や場所、さらに人気の企画である「ねんドル岡田ひとみの親子ねんど教室」の会場への行き方などの質問が多くありました。



カフェコーナーの人たち



社協の「み～しゃ」



いらっしゃいませ

社会福祉協議会のイメージキャラクター「み～しゃ」の出迎えて、受付2カ所のうち1カ所をCCクラブが受け持ちました。今年からスタンプラリーのスタンプが変わり、愛くるしい「み～しゃ」のポーズとなりました。来場者の中でも子ども連れの来場者は、受付でスタンプラリーの用紙を受け取



こちらです



折り紙つりコーナー

り会場巡りしてました。

毎年新しい企画が加わり、多くの人に楽しんでいただける工夫をしています。

CCクラブでは、前日の準備から関わり、このイベントが成功するよう運営協力を行っています。協力員が少ないと、当日協力しても交代して他のブースの様子を見学することができません。もっと多くの協力者が望まれます。

だい かい みなとくちいきふくし  
**第4回 港区地域福祉フォーラム スタンプラリー合紙**  
 会場 内が所にて設置されたみ～しゃスタンプを集めよう。スタンプを3つ以上集めたら、景品がもらえるよ！  
 (★スタンプの★は、全圖に1つ以上追加するともらえるチャレンジスタンプだよ！)  
 順番で集めてスタンプラリー景品交換所に来てね！  
 (スタンプの集め方や景品交換所の場所は、パンフレットをみてね！)

景品交換所  
 スタンプ① (み～しゃ)  
 スタンプ② (1匹 ねんドル)  
 スタンプ③ (3匹 ねんドル)  
 スタンプ④ (ねんドル)  
 ★スタンプ⑤★ (ねんドル)

## 活動報告会中止

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、2月19日に臨時役員会を開き意見交換をしました。結果、止むを得ないと判断し、2019年度の「活動報告会～CC大学の学びを生かして地域活動を！」の開催は中止と決定しました。延期も考えられましたが、今年度中は日程的に無理と判断しました。



臨時役員会で活動報告会の中止を決めました

なお、交流会については、会食を伴うため17日の役員会において中止の決定をしていました。

それに先立ち2月8日には、活動報告会において活動発表をする方の予行練習をし、ボランティア活動をわかり易くするために動画の準備もしました。ポスターを作成し、区内各所の掲示板に貼るなど、準備も整えていました。また、当日の役割分担、進行予定など開催を待つばかりとなっていました。不要となってしまいました。

しかし、これだけではありません。お詫びを含んだ来賓の方への中止の連絡、活動発表者への連絡、運営委員の皆さんへの連絡、そして一斉メールによりCCクラブ会員の皆さんへという具合に広がってきました。それでも連絡できない人たちのため、関係者は、当日会場で中止の案内をしました。



不要となった書類の数々

## 昔遊び交流会

赤羽小学校の地域コーディネーターとして活動中のCCクラブ会員石川啓子さんの呼びかけで、1月28日（火）に赤羽小学校一年生と昔遊びを一緒に行いました。地域の方を含め16名が集まって、それぞれ体育館、講堂、一年生の教室を使用して5つの昔遊び（けん玉、こま回し、羽根つき、お手玉、めんこ）を行いました。



けん玉



こま回し



羽根つき



お手玉



めんこ

一年生の子どもたちは、昔遊びを通して地域の方、CCクラブの人たちと交流し、今のゲームとは異なる昔遊びを楽しんでいました。

地域ボランティアの方に協力していただき、学校からも地域の活動に参加する機会を増やして双方向の交流が盛んになるようにしていきたいという学校側の思いを感じました。



## ボウリング大会

1月28日（火）CCクラブ主催『第1回新春ボウリング大会』を品川プリンスホテルボウリングセンターで開催致しました。

14名の参加者が4チームに分かれ、2ゲームに汗を流しました。初心者もいれば「50年ぶりのボウリング」という会員の方もいました。会員同士すっかり打ち解けて、一投ごとに激励、応援、拍手喝采の嵐となりました。

ゲーム終了後は同ホテル内中華レストランで表彰式と懇親会を行いました。

1位の木原杏様（7期、スコア321）にはCCクラブのトロフィーと副賞が、他にチーム賞、参加賞の授与があり全員健闘を称えあいました。

ボウリングは会員の皆様との交流，親睦に気軽に楽しんで健康にも良いスポーツです。

2020年度は地区CCクラブ対抗戦を企画しています。CCクラブのお知り合いがもっと増える機会になりますように、継続して実施できることを願っています。（橋本 順子・記）



参加者の皆さん



優勝した木原さん



大会の様子



## バリアフリー調査

CCクラブ会員が、少ないながらも参加しているボランティア活動を紹介します。

港区社会福祉協議会の「バリアフリーマップ充実検討会議」で、月に1回程度の道路上のバリアフリー状況等の現地調査、またはバリアフリーに関する会議を行っています。

調査は、社協事務局が事前に用意して、まず会議でどこを歩くか意見調整を行います。その後、実際に車いすとともに歩きながら、歩道の幅を測定したり、坂道の角度を測定したりしながら、途中にある多目的トイレなどの調査をしていきます。ときには車いすに乗ることもあり、押して歩くこともあります。時間はほぼ1時間30分くらいです。

その中の一人、岩佐徳太郎さんが今年度の港区地域福祉フォーラムの中で「地域福祉功労賞」をいただきました。

運動にもなるボランティアで、港区内のいろいろな場所にも行けて、車いすに乗ることもできる有意義で楽しい活動です。



歩道の幅を計測しています



車いすとともに歩道を歩きます

## 特集 防災活動中のCCクラブ会員

### ◎五木田京子さん（11期）

東日本大震災以降度重なる災害で防災に対する関心を強く持つようになりました。

そんな折港区で防災士の募集があり取得することができました。防災士として継続して学びたい、何かお役に立てないかと思い、毎年秋に開催される港区総合防災訓練のうち昨年は芝浦港南支所で行われた“火災現場から人命救助する”デモンストレーションのお手伝いをさせていただきました。

防災についての講習会は様々な単位で開催されています。港区役所防災課主催の防災講座もとてもためになりました。実際に被災地で防災ボランティアの活動をされている方の話や避難所の対応、スムーズな避難所の体制作りなど多岐にわたる内容を含むワークショップディスカッションは大変勉強になりました。1月25日開催された日本防災士会スキルアップ研修会では「防災士でできる市民トリアージ」の研修会に参加しました。募集定員の決まっている研修会はすぐに満席になり参加できないことが多々あります。防災への関心の高さを実感しました。また女性で構成されている「みなとBOUSAI女子会」では女性の視点から身近な防災についてのセミナーと地域活動の紹介、ワークショップなども参考になりました。また2月7日芝の家での女子会では“減災あれこれ pasta café”が行われ「おいしいミニ炊き出し」の調理法について学びました。

災害は忘れたころにやって来ると言いますが、いつやって来るか分からない災害に日頃から自分のできる防災への意識「自助」そしてご近所・地域との連携「共助」最後に「公助」があることを様々な講習会に参加するなかで学ばせていただきました。



芝の家での防災PR活動

### ◎榊原 益躬さん（12期）

55歳の時に町内会の役員の方から、声をかけていただき町内会の防災役員になり、白金小地域防災会のメンバーにもなりました。地域のお役に立ちたいとの思いから、現在63歳で現役の会社員を続けながら町内会会長と地域防災協議会代表をしています。

地域防災協議会とは「地域住民が自分たちの地域は自分たちで守る」という意識に基づき自主的に結成された防災組織で、10町会から各3名程度選出されています。災害対策基本法により活動の支援は行政の努力義務になっており、担当職員が付き、毎年助成金が支給されます。協議会の活動目的は「地震などによる大規模災害に対して、消火活動、救出救助活動、安全、迅速な避難誘導、避難所の運営などの活動を行う」です。

活動としては、月1回の防災役員会と、年1回の10町会による総合防災訓練や、1,000名の避難者生活を対象とした避難所運営マニュアルを作成しています。今年度は、避難所空間設定訓練を行いました。3月には地元町会において「安否確認訓練、スタンドパイプ・D級ポンプ操法訓練、公園のかまどベンチを活用して炊出し訓練」を行う予定です。

個人的には防災士になり、応急手当普及員の資格を取り、港区防災会議のメンバーとして委嘱を受け活動をしています。

防災会議メンバーは港区長を始め、区議会議長・教育長・各消防署長・各警察署長・医師会、歯科医師会、薬剤師会会長・陸上自衛隊・東京都職員・防災協議会代表・学識経験者等で構成されています。CC修了生の一員として、さらなる決意で地域貢献を志していますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



白金小地域防災訓練



## ◎川村 潔さん（9期）

### 平時の防災活動

CCクラブのみなさんは、多くの所でご活躍のことと思います。ここでは、平時の防災活動を考えてみたいと思います。災害に見舞われ困難に直面した際、被災者ご本人は被災にめげることなく立ち直る努力をもちろん致しますが、多くの方々が救助活動等に手を差し伸べてくれます。

港区では防災活動の知識や技術を身につけるため、NPO法人日本防災士機構認証の防災士を育成しています。その有資格防災士で構成されているのがNPO法人日本防災士会で、会員相互の交流と親睦を図り、スキルアップと地域防災力の向上を目指し、区内22カ所の地域防災協議会あるいは地域防災ネットワークに参加し、安全・安心な社会の実現のため、地域防災活動に励んでいます。また、NPO法人日本防災士会東京都港区支部では、知識と技術に基づき、総合防災訓練で区民への啓蒙活動をしています。みなと区民まつりや地域福祉フォーラムにも参加しています。求められれば、町内会・自治会での防災訓練の支援・助言も致します。

東京消防庁では、災害時支援ボランティア制度を設けています。日本防災士会では主に被災前の備えに力点をおいていますが、災害時支援ボランティアでは、被災後の倒壊家屋あるいは瓦礫の中から被災者を救助・救出する訓練を行います。心肺蘇生法（胸骨圧迫・人工呼吸・AED）の実地訓練も頻繁に行い、いざという時に具体的行動ができるよう訓練をしています。

全国各地から集まるボランティアを被災現場に振り分けるボランティアセンターを運営するのが、港区社会福祉協議会の災害ボランティアです。

以上のように、港区では、平時から防災ボランティア活動をする制度がいくつかあります。みなさんの参加をお待ちしています。



災害ボランティア講習会

## ◎石賀 幹春さん（9期）

私はマンション住まいで、防災会も組織されていますが、実際に活動しているのは2～3人です。これに管理組合から防災担当理事が加わり、管理会社と協力して運営しています。

管理組合の理事になると同時に、防災担当となり、急いで防災士の資格を取りました。私の地区は在宅避難地域で、震災時は避難所に行くのではなく、自宅待機になります。【各フローには備蓄倉庫があり1戸あたり3日分の水・食糧・その他用意してありますが、目標は1週間分ですから、不足分は各自備蓄する必要があります。】

まず各フロー単位で、防災・防火の共助要員の「フロー委員」を1名選任、フロー委員は住民全員が経験するために順番に半年毎に交代します。フロー委員対象に半年に一度①初期消火訓練（水消火器による）②AED使用訓練③無線連絡訓練④三角巾の使い方⑤備蓄倉庫見学等を消防署の協力で実施します。

また、年に一度全住民対象に消防署の協力のもと①避難訓練（階段での避難）②初期消火訓練（消火器の使用方法和初期消火方法）③煙ハウス体験④ベランダの隔て板破り体験等を実施。更に年一度管理組合と防災委員で「災害対策本部設置訓練」を実施しています。

そのほか芝浦小地区防災協議会の役員として、月一回の連絡会議出席と年一回の総合防災訓練にマンション住民を纏めて参加します。

30年以内に70～80%の確率でマグニチュード8クラス以上の大規模地震が起きると言われています。その時は、2～3日は公助があまり期待できないので、自助・共助が大事で地域の人皆で準備すべきだと思います。



マンションベランダの隔て板破り体験

# 地区CCクラブの年間活動報告

## 芝CCクラブ

昔の芝区北半分の地域をテリトリーとした芝CCクラブの2019年度の主な活動は次の通りです。

- ① 本芝公園、三田いきいきプラザ、勤労福祉会館等の花壇の手入れをしました。年2回の花（パンジー、クリスマスローズ等）植替え、用土補充、施肥、雑草取り、水やり等、地域環境整備を適時行いました。時には近隣住民の方々の協力を得ています。
- ② 「港地域パーキンソン病友の会」支援として毎月1回日曜日に「ヒューマンぷらざ」で会場設営、撤去、運営等のお手伝いをしました。
- ③ 「三田いきいきプラザ」と協同で「芝みたまち倶楽部」を年6回開催し折り紙やクリスマスカード作成講座を行いました。
- ④ 地域コミュニティ活動として「芝ふれあいまつり」「三田いきいきプラザまつり」「ヒューマンぷらざまつり」「社協フェスタ」「ラクっちゃフェスタ」等に「折り紙」「アロマハンドマッサージ」等で活動の一端を紹介しました。
- ⑤ 会員交流として年1回の総会、1・7・8月を除く毎月の定例会（芝コミュニティーはうす）で業務連絡をしました。
- ⑥ 新年会、新入会員歓迎会、忘年会を適所で新井隆治会長はじめ全員で行いました。

（大塚 堅一・記）



アドプト活動



パーキンソン病友の会支援活動

## 高輪地区CCクラブ

### 地域と繋がるフードドライブ活動

2019年度の高輪地区CCクラブはカフェを中心に活動し、高輪区民センターカフェでは地域の方のリピーターが増え、ゆかしの杜カフェは一年が経ち、高齢者を中心に賑わっています。HUG高輪のミニトク&カフェでは地域に密着したテーマから生活に密着したテーマまで多岐にわたりさらに充実しました。



フードドライブ当日カフェ

今年度は「フードドライブ」活動を始めました。一昨年にミニ講演会で「こども食堂」の実態を知り、「食」についての問題意識が会員から出ました。この課題を会員全体活動にすべくフードバンクの見学、講演会・シンポジウムに参加し認識を深め、併せて港区清掃局と連絡をとりながら実施を目指しました。2019年度4月より港区がフードドライブの受付を始めたこともあり、高輪地区CCクラブ総会で決定し、7月に第1回目のフードドライブを実行。16名から117点が集まりました。今年度4回実施し、延べ40名249点が届けられました。今後も定期的にこの活動を継続し、地域と

の繋がりを強くしたいと考えています。

（太田 則義・記）



案内スタッフ



提供品



## 3 Aクラブ

令和元年に3 Aクラブは結成6周年を迎えました。

3 Aクラブ会員各々の様々な活動に加え、3 Aクラブ独自の企画イベントや連携・支援活動も年々増えています。

毎月第4火曜日開催の3 Aクラブ主催「サロン麻布」、毎月第4土曜日のアークヒルズ・カラヤン広場「おつかい大作戦」の支援、9月の「アークヒルズ秋祭り・昔遊び」の運営、11月の麻布保育園での大学生との人形劇上演などの毎年の定期活動に加え、今年度は新たな活動が2件スタートしました。



人形劇の仲間たち



サロン麻布12月—みんなで歌うコンサート

11月から始まったサンサン赤坂・坂の上のカフェ・りんたろうの支援、麻布区民センターとの共催「楽しい3 Aチャレコミ講座」の冠名をつけた9月開催の小嘶講座と令和2年1月2月開催のボイストレーニング講座の企画運営で、利用者や受講者から好評を得ています。

3 Aクラブの規約や体制も適宜見直し、会員の緩やかな連帯のもと、5月の総会、月の定例会及び隔月のメンバー会議、新年交流会やランチ会など会員同士の親睦を図るイベントも盛り上がっています。

(佐井 有美子・記)

## 明虹会

5月の総会で2019年度の代表、副代表、幹事を選出し、明虹会の年間活動計画（案）が承認されました。その後、会場を移して12期生歓迎ランチ会を開催しました。幹事会は毎月開催して活動計画の進捗や予定等を協議し、その概要は「明虹会たより」として会員に配信し、情報の共有に努めています。

7月と8月に、芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ“あいぷら”の夏祭り「涼をとろう」に、13名の明虹会員がお手伝いしました。かき氷や冷ゼリーを作り、子供たちやシニアの方に提供して、「ありがとう」「おいしかったよ」の声を頂戴しました。

10月に芝浦港南地区総合支所主催の「レインボーブリッジ・ナイトウォーク」に企画段階から参画し、当日はガイド役や受付などを担当しました。(写真右)



11月はCCクラブ主催の講演会「想いをつなぐ～東京2020大会、そして未来へ～」と題して、2012年ロンドンオリンピックに出場した渡邊一樹氏を招いて開催しました。明虹会が企画・運営の実務を担当し、日時、会場決定、講師選定ならびに港区役所や関係先との折衝、ポスター作製と配布等の諸準備を進め、当日の講演会を成功裡に終えることができました。多数の一般市民の参加と



明学ボランティア学生の協力も得て多世代交流を図ることができました。(写真左)

1月は12期生の自主企画による新年会をNECクラブで開催し、明虹会員間の交流を深めました。2月は芝浦港南地区総合支所との協働企画「KABAで行く！学べるお台場ツアー」を実施し地域市民に楽しんでいただきました。なお3月の総合支所主催の「ベイエリア講座&運河クルーズ」は会員が企画段階から参画・準備してきましたが、新型コロナウイルスのため延期となりました。一方、会員個人レベルの地域活動やサロン活動も自由に行われています。明虹会は側面的な支援を継続しております。(事務局 恩地 亨輔、岡部 正實・記)

# 講演会『想いをつなぐ～東京2020大会、そして未来へ～』

令和元年港区「東京2020応援プログラム」推進助成対象事業として、港区の後援をいただき、昨年11月30日（土）みなとパーク芝浦にて明虹会の運営のもと講演会が開催され、一般の方を含め73名の参加がありました。



渡邊一樹講師

## 渡邊 一樹氏（セントラルスポーツ所属）

1987年1月生まれ、神奈川県出身、177cm72kg。

3歳から水泳をはじめ、背泳ぎで小学生（10歳）、中学生（3年）の時に全国大会で優勝、高校生になり、オリンピックに出たいという大きな夢をもち、2012年ロンドンオリンピックに出場。200m背泳ぎで6位入賞。



オリンピックの話に熱が入ります

かを見せられるから、観客は感動するのではよう」との言葉が胸に残りました。

いよいよ4ヵ月後となりました。7月から東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。どんな大会になるのでしょうかワクワクします。

この講演会には、明治学院大学MGオリパラプロジェクト実行委員会の学生たちにご協力をいただきました。有難うございました。



学生あいさつ



受付でオリンピック協賛企業からの缶バッジを提供

講師の渡邊一樹氏から、元五輪選手の体験をもとに楽しい講演をしていただきました。



及川代表あいさつ

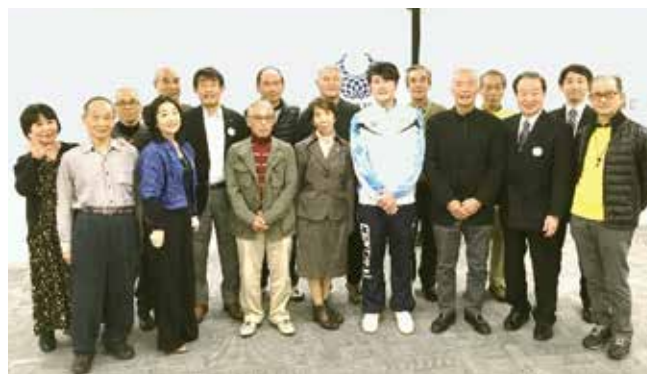
選手は村内に建てたジャパンビレッジでもトレーニングや食事ができたそうです。

アスリートとしての目標を設定し、北京五輪選考会では惜しくも3位で残念な思いを経験し、夢を叶えるまで最大限の努力と熱意を持ち続けられました。ロンドン五輪で夢を達成されましたが、人間として成長しなければ一流アスリートにはなれないと話されました。

「スポーツは、アスリートがどれだけ努力した



司会の野村企画部会長



協力スタッフの皆さん

なお、チャレンジコミュニティ・クラブホームページ（会員用）にも明虹会岡部正實氏（10期）の実施レポートが掲載されていますので是非ご覧ください。（佐藤 芳男・記）



## 企画部研修会「サロン活動について」

令和元年12月4日（水）13時30分～15時、ゆかしの杜6階白金台区民協働スペースで「サロン活動について」ケーブサロン、なぎさサロン、みんなの倶楽部代表の平田渥美氏による講演が、CCクラブ企画部会の主催で開催されました。37名の出席がありました。

48階建て1095世帯の超高層マンションで5年に渡ってサロン活動をされている、平田渥美さんの講演はとてもしっかりとした内容でした。マンション内の方からサロンの要望があって立ち上げたサロン活動を、戸建てからマンションに移り住んだ方の気持ちを分析されて、無理のない、長く続けられるサロン活動につなげていったことは、素晴らしいものと思いました。



平田渥美氏（12期）

そのケーブサロン運営を進めていく中で、皆さんの協力はもとより、管理会社の支援をいただけるようにする熱意には感心しました。また、活動が認められて内閣府から『社会参加章』を受章されています。

内容も、メインは懇談とし、メンバーによる趣味を生かした演奏会や歌唱、港区における防災訓練や対策、さらには専門家を招いての講話や勉強など多彩に渡って計画されて、皆さんの興味を引くためのマンパワーが感じられました。



平田さんの話をみなさん熱心に聞きました

平田さんは、ほかに2つのサロンを立ち上げ、活動されています。

なぎさサロンは、高齢者の孤立を防ぎ健康寿命を延ばすため、高齢者に外に出る習慣をつけても

らうという目的のために、茶話会や情報交換の場を提供します。マンション内のサロン活動とは違った一面を持たれて活動する内容を詳しく話されました。参加者の年齢層はケーブサロンより少し若い方が多いそうです。

みんなの倶楽部も同様の趣旨ではありますが、とくに健康寿命を延ばすために必要な事業を行っていると感じました。

サロンを立ち上げるうえで大事なことは、介護予防リーダーとなることにより、区の施設が利用しやすくなり、会場費用がいらなくなり、運営が楽になります。

さらに、サロンを長く続けていくうえで大事なことは、後継者の育成とおっしゃる平田さん、そこまで考えて、何人かに介護予防リーダーの講習を受けてもらっているそうです。



会場からの質問にも丁寧に答える平田さん

会場からの質問にも丁寧に答えていただき、会場でのやり取りも活発となりました。また、河合先生からも感想をいただきました。

司会は野村知義CCクラブ企画部会長で進行了しました。有意義で楽しい時間を過ごすことができました。



河合克義先生



野村企画部会長

（古橋 義弘・記）

■ 運営委員会報告

2019年度の運営委員会は、期・グループからの選出21名、地区CCクラブ選出4名、代表・副代表・部会長8名の合計33名で構成されてきました。昨年度の活動実態調査から会員の多岐にわたる活動と活動をしようと思っはいるが、手探り状態の方もいることが分かって来ました。また、昨年度からの「運営委員の選出」についての課題と「運営委員会の役割」、「運営委員の役割」について3回の話し合いをもつことができました。

今年度の運営委員会では、地区CCクラブや期・グループの活動を報告してCC大学修了後の活動状況の共有を図りました。また、小学生対象のサイエンス講座や区民まつり（中止）地域福祉フォーラムで運営委員を始めとした会員が参加した運営協力活動、研修旅行の学びの共有、「2020応援イベント」講演会の実施も行って来ました。活動報告会において、地区CCの活動や会員グループの自主活動を報告することで会員を始め区民の方々にも活動の共有と参加を促したいと準備計画をしましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染予防対策のために中止となりました。



コロナウイルス感染予防対策のために中止となりました。

地区CCクラブや個人グループの活動については区長、副区長訪問の際に報告させていただきました。人材の宝庫であるCCクラブでは、これからも運営委員会の役割が重要になると考えます。

（副代表 石川 啓子）

■ 活動計画

**2020年度CCクラブ 第5回定期総会 ホームカミングデイ 交流会（予定）**

2020年6月20日（土）13：30からを予定

場所は明治学院大学白金キャンパス内

- CCクラブ第5回定期総会
- ホームカミングデイ
- 交流会

詳細は同封されています案内状及び運営委員会報告、ホームページでご確認下さい

**編集後記**

令和に入り3回目の、チャレンジコミュニティ通信第43号を、お届けします。

特集は、各地域に於て防災活動を行っている、CCクラブのメンバーの方々の防災に対する取組み及び体験を取り上げました。皆さん防災士として《自助、共助》の精神でご活躍の様です。また第4回「港区地域福祉フォーラム」への運営協力、そして講演会「想いをつなぐ～東京2020大会そして未来へ～」の運営を報告させていただきました。

次に残念なことに、令和2年2月22日に予定されていた2019年度「活動報告会」は新型コロナウイルス感染拡散防止のために中止になりました。機会があれば開催されんことを！

一刻も早い新型コロナウイルス感染が終息することを祈念するのみです。

（11期 鈴木 興雄）



チャレンジコミュニティ通信 vol.43 2020年3月31日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課  
(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel.03-5421-1555 Fax.03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

http://www.minato-ccc.jp

会報部会

部会長 古橋 義弘(1期)

副部長 瀬能 正実(10期)

部員 太田 則義(7期)

部員 榎本 和夫(7期)

部員 境 静子(10期)

部員 佐藤 芳男(11期)

部員 中満 美紀(11期)

部員 鈴木 興雄(11期)

部員 岩出 好枝(12期)